

## 編集委員会から

「数式処理」第6巻1号をお届けします。本号は本来システム編で、数式処理システムを中心としたテーマを集めるべく計画されていた号ですが、本年5月に姫路工業大学で開催された数式処理学会大会の会員の講演要旨が大部になり、これを中心に編集することになりました。講演の中には、専門的に非常に高く評価されるものや、今後の数式処理の研究にとって、大きな課題になる可能性を秘めたもの等千差万別です。今後、大会の講演が日本の数式処理研究にとってより重要で内容的にもより豊富なものになることを期待します。なお、大会講演の報告は本誌に掲載される論文等とはことなり査読制度は設けていません。原稿は講演者から送られたものを、そのまま掲載しています。

既に前号にも記しましたが、本号からは「会員短信」のページを設けました。このページは、会員の多方面での活動を紹介することを目的にしています。第一回として、桂重俊氏から投稿されました、オーストラリアで開催された磁性関係の学会参加時の当地での mail の状況等について掲載しました。今後も会員からの、多彩な投稿が増えることを期待します。

国際会議の案内は4件掲載しました。この中、ASCM98とATCM98は本学会が開催に寄与しており、アジアで開催される国際会議です。MEGA98とISSAC98は開催地がヨーロッパですが、近年、ヨーロッパやアメリカで開催される国際会議への会員の参加も増えています。日本の研究を数式処理分野の「先進国」に知らしめる好機と思います。ISSAC98の案内は前号に続きますが、今回は「数式処理」への掲載を依頼して $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ ファイルがわざわざ送られて来ましたので、再度掲載しました。国内の研究集会(国内開催のATCM98を別として)は、別個に掲載する予定にしていますが、取り上げる必要のある研究集会の数が少ないので、簡単な内容と連絡先を紹介するにとどめました。今後この種の会合の計画等をお持ちの方は編集委員まで御連絡下さい。

なお、当初は本年夏にハワイ・マウイ島で開催されたISSAC97の参加者による国際会議報告も本号に掲載する予定にしていたのですが、都合により次号に掲載します。国際会議報告で多くの原稿をいただいていますので、次号も可能な限り早く刊行する予定です。御期待下さい。